



086-245-4343
相談電話 24時間いつでも シミジミ

岡山からの電話



写真 シンガポール

青空とビル

斎藤 恵子

生きものみたいなビル
どれも光り輝いている
つるんと無駄なく美しい
感情のない肌は少しさびしい

光を吸い込むたび
窓は空を映し ビルは
空へと高く大きくなっていく

窓から
わたしを見ているひとがいますか
わたしが空を見ていることが見えますか
そうして

ひとことも交さないで
月日は過ぎてしまふけれど

あなたもわたしも
街のどこかですれちがったとき
あらっ

どこかで遇った気がするの
ビルの並ぶ街角で
青空を見上げていた
あなたを
わたしを
思い出すから

第31回岡山自殺予防シンポジウム 「家族を考える～親子関係と生きづらさ～」

基調講演「響きあう家族のものがたり」

2017年11月11日(土) 岡山商工会議所

ノートルダム清心女子大学教授
村中 李衣氏



ジャガイモの話と信じて待つこと

私は山口県と岡山の大学を行ったり来たりして、週末は山口の2900坪ほどの土地に果樹や野菜を育てています。育て方がよく分からないんですが、つれあいは実家が農家なので大体分かり、畝を耕し30cm間隔でじゃがいもを植えました。雑草が生えてくるのでビニールのマルチを掛け、芽を出す辺りは開けておくということをしました。でも私は作業に疲れて最後の1畝で「もう勘弁して欲しい」とマルチを掛けずに放っておいたんです。

しばらく経って畑に行くと、そのマルチを掛けたものは穴からジャガイモたちが伸び始めて、私がマルチを掛けなかった1畝だけは草と一緒にぼろぼろになっていました。私は草を全部抜きました。畝の先までして振り向いたら、草と一緒に私の大事なジャガイモも全部倒れていました。草があったから支えられ細いながらも一緒に育っていたのが支えをなくして倒れていたのです。「支えしようか」。つれあいは「もう遅い。だけどここは陽もよう当たるし風の通りもええから育つものは育つ。もうそれを信じるしかない」。

それから2.3週間後、細いなりに立っていました。収穫の時期、マルチを張ったのほどは大きくはなかったけど、ちゃんとイモが出来ていました。食べたらいちがかった。

だから私は光の力や通しのいい風を確保することは社会の責任だと思います。信じて待つ「待つてあげることが大事だよ」と伝えるということが、たぶんここに多くいらっしゃる相談員さんのお仕事の中での言葉やそれから信じている声なのではないかなと思います。

うんこ日記のこと

私は児童養護施設でいろんな事情で親と一緒に暮らせない子ども達と一緒に過ごすという事もしています。フリールームにたくさんの絵本を置いて、子どもたちが自由にやってきて一緒に絵本を読みあうということをやっていました。

「うんこ日記」はお父さんがいない1週間の間、お母さんと息子が元気で過ごしていたよと伝えるのにうんこで日記を書いたという話なんです。あらすじは、日曜日の夕方、1週間の旅から帰ってきたお父さんにしょうへいは自分の描いた絵を見せるのです。この1週間の僕の絵日記は「う」「ん」「こ」の絵で、1段から7段あって、それぞれ食べた食事の絵を描いています。7段目は、明日「う」「ん」「こ」になるはずの今から食べるエビフライです。「すごすぎる！」と父さんは記念に名前をいれました。

実はこの話の元になるエピソードは養護施設で男の子との出会いがあったからなんです。

養護施設の子も達は今は親と死別している子はほとんどいなくていろんな事情で親と離れてすごしています。お正月とかお盆には出来る限り家族と過ごすのですが、家から施設に戻って来たときに心が落ち着かなくてざわざわしていることが多いのです。

この絵本の元になった男の子は自分で本を持ってきて一緒に読み終わった後、用意してある大きな紙を見てふっと「俺、これに何か書いてええんか?」「いいよー」そしたらクレパスの箱を開けて描き始めたんです。

「お化けが寝ちよるん?」って聞いたら「うんこに決まっちゃる」。私はビックリして「中には何が入ってるのかな」と言ってしまった。「教えちゃろうか、ハンバーグ」そして、ここに赤。「人参のグラッセ」「あんた難しい言葉しっちゃるね」「ふん当たり前じゃ」スパゲティやホウレン草のソテーとかイカのリングフライとフライドポテトを書いたのです。

「家族と一緒に行って、ハンバーグとサイドメニューを頼んだなあ」とか私がそんな事を考えていた時です。まさらなレモンイエローのクレヨンを見て「これも使ってええんか?」「どうぞ」。すごく嬉しそうな顔をして彼がここに星みたいなものをいっぱい描いた。

「金平糖?」「バカじゃのう。星に決まっちゃらあ」そして2つ窓を描いて、笑っている母さんの顔と横に笑っている自分の顔を描いたんです。子供にとって、母さんと並びあって、何も考えずにキラキラ光る星の下で、ハンバーグとサイドメニューのフライドポテトを食べた、その一つ一つが自分が生きていることの深い肯定になっていて、キラキラ瞬いていたんだなああってことがわかりました。

この男の子はりっぱに大きくなって、たぶん心の中でそういう誇らしさは彼を一番育ててくれるんだろうなと思います。

私の子には私の声で「ここよ」

刑務所で服役中のお母さんたちが自分の子供の事を思って一冊の絵本を選び、6回のプログラムを通して最終的には自分の声で一冊の絵本を読むというプログラムをするようになりました。それをCDに録音して子供たちに届けるというものです。

一人の人がこの「ちいさな木」っていう絵本を選びました。その人は自信のない小さな声でお読みになるんですね。

ちいさな木 赤ちゃんの木 お母さんの木は
どこにいるの ここよ 私がお母さんですよ
わあ おおきなカエデの木
あなたがお母さんだったのね

それぞれの木が「私のお母さんの木はどこにいるの」って

きいたら、「ここにいるよ」って「大きくおなり」っていう思いで母さんの本が答えるっていうそういう本なんです。

その方は読み始めても、先が読めない。どうしてかと言うと「ここよ」と言えない。ここ（刑務所）は言えない。「ダメだわ。私は無理です」。そしたら6人のグループみんな言えなくなってシュンとなりました。

じゃあ、「ここよ、私がお母さんですよ」っていうのだけ残りの5人の人に読んでもらったんです。そうしたらその声を聞いた彼女が「ああ、私の子には私の声で、『私ここよ』と言わなければダメですよね」って。私が私であるということを含めて認めるためのレッスンだったような気がします。「ここよ」と言えた時に残りの5人が小さくガッツポーズ出していたので、それは本当に忘れられない思い出でした。あなたと一緒に今この時をお母さんも生きて、間違いなくこの時間をすごしているよということ伝えてもいいかなというふうに思うようになりました。

スラムで絵本を読み合う

縁があって私はタイで教育支援のNGOを女性3人で立ち上げました。NGO「マレットファン」というグループです。

スラムでは絶対的な貧困が犯罪に結びつくことが多く、その更生施設の少年たちと読みあいのワークショップをして欲しいという希望があって行ってきました。

タイでとても新しい試みをしているこの施設は14歳から18歳くらいまでの子ども達がいて、全員で90人。読みあいのワークショップ90人なので30人ずつ分けて3グループでワークショップをしました。

絵本を1000冊を並べ1時間は好きに読んでもらう。その後2人組みになって相手のために似合う本を選び読んであげる。相手の為に似合う本といっても何が似合うかわからない。だからお互い質問し合うために質問シートを作って「この人はこんな感じかな」と思って相手の為に絵本を選ぶのです。そして絵本を読みあうという2時間のプログラムです。

最初、職員さんとボランティアの方たちは「更生の何の役に立つのか、教育的効果があるか」と疑問視しました。それから、「この子達は文字を読むことが困難ですし、あまり聞いても答えられない」と読み合いに否定的でした。

（画面を指しながら）この2人組みは「いいだろう。オレが選んだの最高じゃん」って感じですね。この2人は同じ絵本を選んだんです。1000冊もある絵本のなか偶然同じ絵本をどうして選んだか、この子に質問しました。彼は「『おじいさんになった時にどんなおじいさんになりたいですか』と聞いたら『優しいおじいさんになりたい』って言ったので、日本語は読めないけど優しいような写真を見て選んだ」と言いました。こちらの人は「この人に顔が似ていたから」という理由だったそうです。でも選んだ理由は違っていても「こうやって2人がここにあることが奇跡のように嬉しいね」って。

（画面を指しながら）別のこの彼はボランティアの人とペアになり、写真集を選びました。「ボランティアの女性に『おばあちゃんになった時にどんな人になりたいですか』って聞いたら『木こりになりたい』って答えたので、自分も職業訓練で木工をやっていて木を扱ってる時はすごく心が孤独なので、木こりになって山の中で仕事をするのは孤独と向き合うことになると思うから、それを慰めてくれるような絵本がいいかなあと思って雲の写真や空の写真を選びました」と。

まさかそんなことを子どもたちが語るとはだれも思っていなくてビックリしていました。そして拍手の音が大

きくなって、自分たちで自分たちを認め合える拍手に変わっていくということを実感しました。

終わった後職員さんたちも分かってくれたようでした。「変わっていきたい」と思うためには『自分ってこうだ』と決めつけていた自分が『ほんの少し変わるかもしれない』と「ゆらぐ」ことが大事です。特に自分がした小さなことが相手のだれかが喜んでくれることがないと「なんで頑張らないといけないのか」「何で良くならないといけないのか」ということは分からないのです。「ゆらぐ」って大事だと思うんです。

AからBに行く事を目標にせずBに行くことじゃなくてAがちょっと揺らいで、もしかしたらBの方向にもCの方向にも変わるかもしれない、そういう「ゆらぎ」を大事にしたらいいかないかと思っています。

悲しみを抱きしめる

私が岡山へ2週間後に引越しを控えていた時、母が突然くも膜下出血で倒れました。母がICUに入っていたとき、母の病衣にピンク色に光るものがあるのです。看護師さんが「おばあちゃんのお孫さんが来られて『これをつけてください』と言われたんですよ」と。見たらど派手なピンク色の「褒めればのびる子」と書いている缶バッジです。寝ていて反応のない母に息子が託した「みんなの眼差しと愛があれば必ず治ります」というメッセージだったんだと思います。だから、私それを見た時に「褒めればのびる子」という言葉は80過ぎの母にも「命は褒めることで保たれる」と思ったんです。

その後母は結局亡くなってしまいました。ウチはてんやわんやでした。父はアロンアルファでぼつれているところを繕っている。そして母が定期的に毛布にカバーを掛け替え縫っていたのですが、それを父は私に言えなくてガムテープで貼ってある。頑固で私とは折り合いが悪かった父は私には頼めないのです。そういうおかしな事を繰り返して重ねていく中で、私は悲しみは排除したらいけないんだなと思ったんです。悲しみは時と共に、生きることそのものを緩やかに包み育ててくれるのかもしれないと、母を見送った日の自分の日記に書いています。「悲しみを得る」という持ち方を子どもたちに伝えていけたらいいな、「辛いからこそ生きていく価値がある」ということを言葉ではなくて一緒に向き合うことで伝えていきたいなと思っています。

生きることの懐かしさ

最後に。昨日娘に「友人の結婚式で吉野弘さんの詩『祝婚歌』を読みたいけど最後のところの意味は？」って聞かれました。詩の最後のところです。

生きていることのなつかしさに

ふと 胸が熱くなる

そんな日があってもいい

そして

なぜ胸が熱くなるのか

黙っていても

二人にはわかるのであってほしい

「例えば四国の道を2人で迷って、どうしようかと思った時に娘の小さな手を引いてたら真っ暗闇でも絶対大丈夫な気がして歩けるなあと思った」。答える私のほうが泣けてきました。「それが母さんの懐かしさということ？」といわれ「生きることの懐かしさにふと胸が熱くなるのがこれからのあなたのお楽しみじゃね。今を大事にしとったらあとで失敗したり辛かったり逃げ出したかったことそのものが懐かしさになるかもしれぬ」って送り出しました。

今日はどうもありがとうございました。

（要旨 広報部）

身体も精神も健康問題の増加

60代の増加

電話相談
統計
2017年
1月～12月

総受信件数

19,210件(うち男性 10,624件、女性 8,586件)

自殺関連件数

1,794件(対受信率 9.34%)

(数値は全て統計部による)

1、60代の増加

全体件数は前年 2016年の 18,814件に比べ、約 400件増加し 19,210件でした。男性件数は約 500件増加し、女性件数は約 100件減少しました。男女合計件数は 40代が最も多く 4,000件を越え、次いで 50代も 4,000件近くありました。(図1) 前年は 50代が最も多くありましたが 50代女性件数が約 300件減少し、40代が最も多い年代でした。

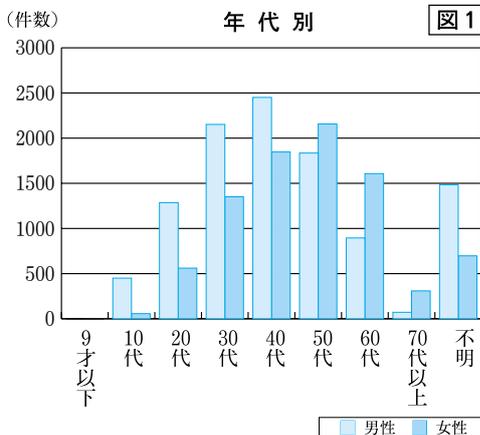
30代は約 3,500件ありこれは前年とほぼ同じでした。60代は男女とも増加し約 2,500件でした。10代 20代は減少傾向でした。男女比は 55%対 45%で、昨年とほぼ同じ割合でした。

男性件数は前年同様 40代が最も多く約 2,400件で約 200件の増加、次いで 30代男性で約 2,100件、50代男性約 1,800件で、30代 40代 50代 60代の男性件数は増加していました。

女性件数は 50代が最も多く約 2,100件ですが前年に比べ約 300件減少でした。次いで 40代女性で約 1,800件、60代女性約 1,600件で、40代 60代の女性件数は増加していました。

60代は男女とも増加で、特に女性件数は 30代よりも多くありました。

10代 20代は男女とも減少していました。若者の電話離れがわれています。メールや LINE で連絡を取り合い「電話は緊張します」という人が少なからずいるとか。「岡山いのちの電話」では緊張することはありませんから、どうぞ困ったときは掛けてください。



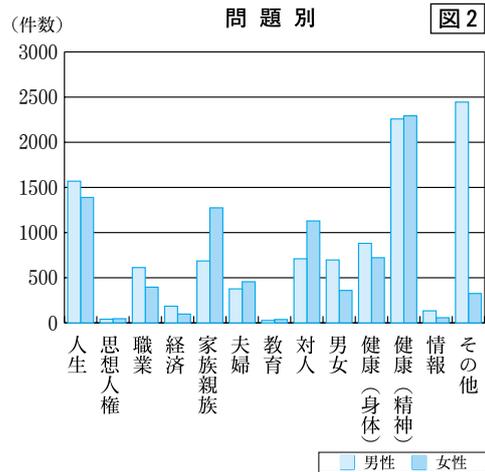
2、身体も精神も健康問題の増加

問題別では、男女合計件数で精神の健康問題が約 4,500件で、前年に比べ約 200件増加し、前年も約 300件増加でしたので 3年連続の増加となりました。(図2) 精神の健康問題は男女が少なく、ほぼ同数でした。

次いで人生問題は男女合計で約 3,000件、前年に比べ約 200件の減少でした。男性の方がやや多くなりましたが大差はなく男女とも減少でした。人生問題の減少にはほっとしますが、引き続き様子を見たいと思います。

家族問題は約 2,000件で男女とも減少し、前年に比べ約 300件減少でした。

対人問題は約 1,800件で男女とも増加し、前年に比べ約 200件の増加でした。現代は人と人との間が希薄で、直接会って話すことも電話で話すことも減っているといわれています。トラブルを抱えていても「岡山いのちの電話」に掛けて話しているうちに気持ちが落ち着いてくることもあります。話してみてください。



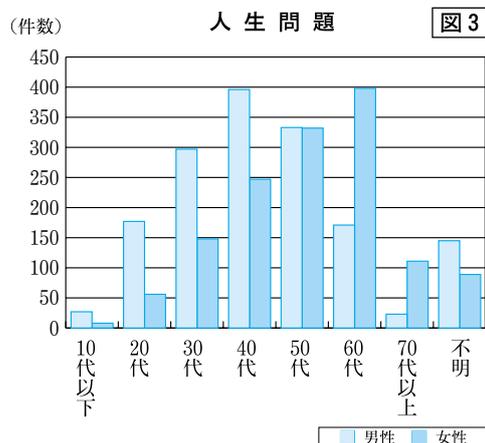
3、人生問題の 60代の増加

人生問題は減少でしたが、年代別に見ると男性の 40代 50代 60代が増加でした。(図3) また女性の 60代 70代も増加でした。男女合計では 50代 40代 60代の順に多い件数でした。60代は男女とも増加で 70代は女性の増加でした。高齢になり生活不安や孤独などがあるのかもしれない。

40代男性と 60代女性がほぼ同数で約 400件ありました。50代は男女ほぼ同数で約 330件でした。男性は 40代 50代 30代の順で多い件数でしたが、女性は 30代 40代 50代 60代と年代が上がるにつれ多くなる傾向で 70代になり一気に減少でした。

男性は働いて収入を得る年代の悩みが多く、女性は世帯収入が下がることに悩みがあるのでしょうか。40代の男性の悩み、60代の女性の悩みにそのようなことを考えさせられました。

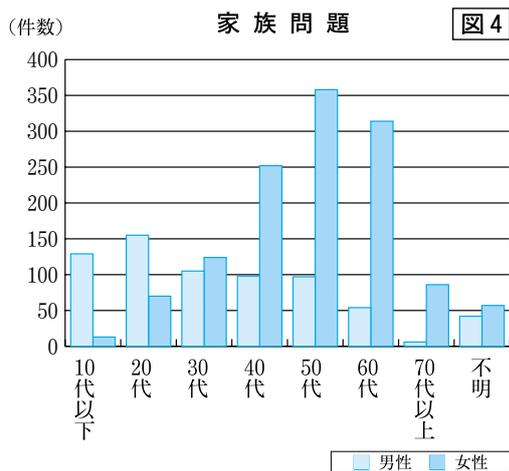
男女比は前年は 50%対 50%でしたが、今期は 53%対 47%で男性の割合が大きくなっていました。



4、家族問題の女性50代の増加

家族問題は前年に比べ約300件の減少でした。全体に占める割合も12%から10%へ減少でした。(図4) その中で50代女性は増加しました相談が最も多い件数で、次いで60代女性、40代女性となっていました。男性は20代が最も多く次いで10代30代となりましたが、10代20代は自身が子どもの立場で家族に悩んでいると考えられました。家庭を担う30代40代50代の年代の男女差は大きく、女性割合の多さが目立ちます。40代50代60代の男女差は何を物語っているのでしょうか。

家族の中は他人に言えない悩みに満ちているものです。聴かせて頂き少しでも楽になってほしいと思っています。

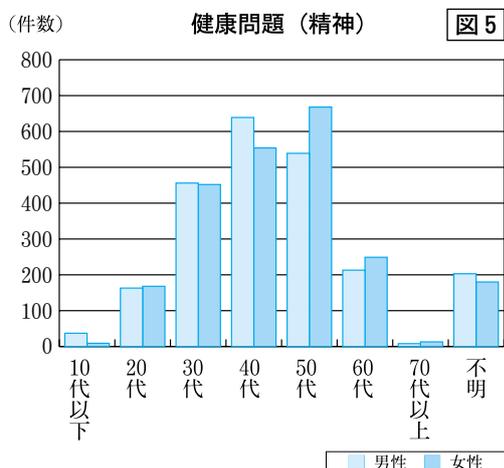


5、40代の精神の健康問題の増加

精神の健康問題は前年に比べ約200件の増加でした。男性件数が約200件の増加で、女性件数はわずかに減少していました。(図5) 全体に占める割合は24%で、前年の23%に比べ多く、4年連続の増加となりました。

男性は30代40代50代60代の増加、女性は20代30代40代60代の増加で、男女比は50%対50%で差はほとんどありません。40代50代は男女合計件数はどちらも約1,200件で、ほかの年代よりも多くありました。最も多いのが50代女性、次いでほぼ同数の40代男性でした。20代30代は男女差はほとんどありません。

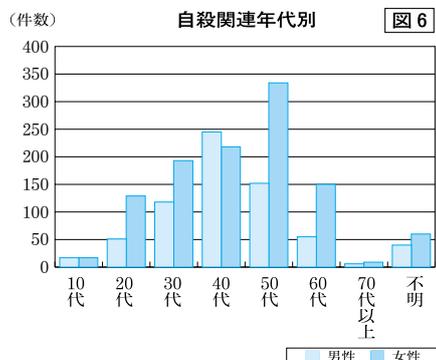
どうぞお気持ちを話してください。少しでも不安や生きづらさを和らげてもらえたらと思っています。



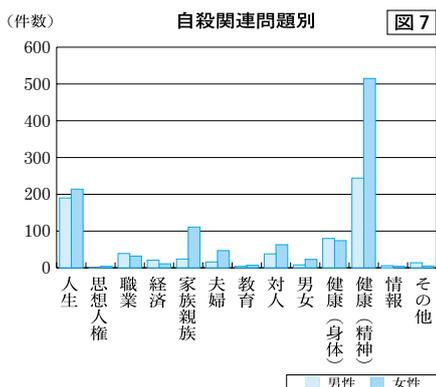
6、精神の健康問題が多い

自殺関連件数は1,794件、対受信率9.34%で、前年に比べ低くなりました。件数は前年に比べ男性約100件、女性約400件の減少でした。

年代別では最も多いのは前年と同じ50代女性で300件以上あり、次いで40代男性40代女性でした。(図6) 40代男性、60代は男女とも増加でした。10代20代では20代女性はやや増加でしたが他は減少でした。若い年代は電話が掛けづらいこともあるかと思いますが、どうぞ悩みを話してください。ほかでは話せないことも話すことができます。



問題別では精神の健康問題が男女とも最も多く、次いで人生問題となりました。精神の健康問題は前年に比べ女性件数が約300件減少でした。(図7) 人生問題は男女とも減少で、男性の身体の問題、女性の対人問題はやや増加でした。



2012年から2017年までの自殺関連件数の推移(図8)を見ますと、前年に比べ減少していますが、前々年とはほぼ同じでした。2012年は男女差はあまりありませんが、2013年から2017年は女性の割合が多く、しかも女性の件数は男性と比べ変動していることが分かります。



人は失意と希望のはざまに生きていると思います。その振幅に耐えられないうちにもときにはあるでしょう。そんなときはどうぞこの岡山いのちの電話に掛けてください。あなたの電話を待っています。

(文責 編集委員)

2017年度決算報告及び 2018年度予算

(単位：円)

	摘 要	2017年度 決 算	2018年度 予 算
事業 活動 収入	事務費収入	9,000	10,000
	受講料収入	400,000	220,000
	自殺予防シンポジウム	59,000	100,000
	バザー	0	50,000
	研修参加費	200,300	200,000
	受託金	3,348,000	3,300,000
	地方公共団体補助金	340,000	350,000
	連盟補助金	256,210	250,000
	維持会費収入	2,222,247	3,000,000
	賛助会費収入	2,350,825	2,000,000
	その他寄付金 (共同募金他)	1,750,000	1,600,000
	運用収入	7,853	20,000
	雑収入	17,919	30,000
		収入計	10,961,354

岡山いのちの電話協会総会

2018年6月16日(土)今年度総会を開催し、活動報告・決算報告、活動計画・予算が承認されました。昨年度は定款変更、法人の組織改編がありました。相談活動は変わることなく毎日電話を受けています。

ホームページもご覧ください。



(単位：円)

	摘 要	2017年度 決 算	2018年度 予 算
事業 活動 支出	給料	2,338,000	2,352,000
	賃金	720,000	720,000
	法定福利費	404,554	420,000
	研修費 図書	24,019	30,000
	研修費 養成講座	1,684,394	1,200,000
	研修費 継続研修	489,000	500,000
	研修費 全体研修	802,685	1,000,000
	研修費 自主研修	398,574	350,000
	自殺予防シンポジウム	366,442	350,000
	旅費・交通費	275,880	360,000
	備品費(含固定資産器具)	0	50,000
	印刷費	448,853	350,000
	一般物品費	20,369	50,000
	手数料	551,818	330,000
	通信費	231,002	250,000
	光熱水費	470,047	400,000
	会議費	6,190	38,000
	借料・貸金庫・会場費	15,552	30,000
	借料メンテナンス費用	561,845	850,000
	修繕費	95,385	50,000
雑費	269,606	300,000	
連盟負担金	162,000	180,000	
市民公開講座	657,772	700,000	
保険料	87,100	90,000	
	支出計	11,081,087	10,950,000
	事業活動収支差額	- 119,733	180,000
畜	固定資産取得支出	117,698	
契	備品購入積立金取崩収入	50,000	
畜	退職給付引当資産支出	180,000	180,000
	当期収支資金差額合計	- 367,431	0

34期

相談員認定式・迎える会開催

3月22日(木)18名の新相談員を迎えました。

堀井会長より認定証を受け取り、先輩方の期待に緊張しつつ電話相談への決意を述べました。

その後、お茶とお菓子のささやかながら温かい迎える会がもたれました。



年代もさまざまな新相談員です

35期養成講座開講

今年の養成講座は4月5日(木)より開講しました。宿泊研修2回の体験学習も含め、来春の相談員認定を目指して一年間の講座です。今年は11名の受講生を迎えることができ、気合が入っています。



堀井会長の講義を緊張の面持ちで受講する35期生たち

自殺予防フリーダイヤルがつながりやすくなりました

フリーダイヤルは2016年から、発信番号を非通知とする電話は受けていません。そのため通知の電話はつながりやすくなりました。発信番号が非通知の設定の場合は最初に「186」を付けて発信者番号を通知にしておかけください。

* 自殺予防フリーダイヤル

(AM 8 : 00～翌AM 8 : 00)

7月10日 8月10日 9月10日
10月10日 11月10日 12月10日

こちらは自殺予防 いのちの電話です

毎月10日8時から11日8時は、全国のセンターが協力して、フリーダイヤルで相談を受けます。2017年の12日間、全国では30,289件(内自殺関連は7,535件25.5%)の相談がありました。岡山はその内の965件を受け、自殺関連件数は245件(25.4%)でした。

☎ 0120-783-556

2019年 相談員 全国研修会が岡山で開催

2019年10月24日(木)～26日(土)に第36回いのちの電話相談員全国研修会おかやま大会が開催されます。第16回アジア太平洋地域電話カウンセリング国際会議が同時開催の予定です。詳細は後日お知らせします。

共同募金 「地域ささえあいプロジェクト」

1月2月の取り組みでは、皆様から956,775円のお振り込みがあり、新年度1,190,000円の助成金をいただきました。維持会員、賛助会員減少の中で貴重な資金源となっております。ありがとうございます。

事務局日誌

2017年			
12月17日	講師派遣 チャイルドラインおかやま(草苺)	12月19日	寄付贈呈式 県民共済(堀井、草苺)
2018年			
1月7日	養成講座説明会(草苺、福田、斎藤)	3月28日	講師派遣 岡山丸の内ロータリークラブ(草苺)
1月18日～19日	第33回全国青少年相談研究集会東京(佐野)	4月3日	寄付贈呈式 (株)エムズ・ユー(佐野)
2月4日	養成講座説明会(草苺、福田、斎藤)	4月5日	第35期生養成講座 開講式・第1回講義
1月28日	自死遺族支援合同研修会(草苺、瀧本)	4月12日	会計監査
2月9日	岡山県自殺対策トップセミナー(草苺)	4月13日	イオンギフトカード贈呈式(菊池)
2月17日	日本いのちの電話連盟理事会(堀井)	4月16日	岡山県共同募金配分交付式(藤本)
3月6日	講師派遣 備北保健所(森口)	5月12日	理事会(事業報告・決算)
3月9日	早朝岡山駅前ティッシュ配り(久安、草苺)	5月13日	日本いのちの電話連盟理事会(堀井)
3月10日	第35期相談員養成講座面接 第34期相談員認定会議	5月20日	講師派遣 勝山高校(森口)
3月11日	理事会(事業計画・予算案)	5月25日	日本いのちの電話連盟定期総会、理事長・事務局長会議(堀井、草苺)
3月19日	評議員会(事業計画・予算案)	5月26日	全国事務局長研修会(堀井、草苺)
3月19日	岡山県地域自殺対策連携調整会議	5月29日	評議員会(事業報告・決算)
3月21日	日本いのちの電話連盟理事会(堀井)	6月16日	岡山いのちの電話協会総会
3月22日	第34期岡山いのちの電話相談員認定式・迎える会		

* 12月から6月まで毎月10日は自殺予防フリーダイヤルの相談を受けました。

◆ 資金ボランティア大募集 !!

あなたも、あなたのお知り合いも、職場の方も、職場も資金ボランティアになって支えて下さい

<維持会員>

個人	A 年額	2,000円
	B	3,000円
	C	5,000円
	D	10,000円
団体	一口	10,000円 何口でも

お振込先

郵便振替 01260-4-15857 岡山いのちの電話
 銀行振込 中国銀行大元支店 普通預金 1223257
 社会福祉法人岡山いのちの電話協会 理事 堀井茂男

<賛助会員>

折々に自由な金額でご寄付下さる方。
 お誕生、お香典返しなど折々に頂けると幸いです。

<寄付金控除について>

- ・法人は、「特定公益増進法人」への寄付金として、一定金額内で損金算入ができます。
 - ・個人は、「特定寄付金」として、支出寄付金額から2000円を控除した金額と総所得金額の40%の少ない金額の範囲内で寄付金控除の対象になります。
- また寄付をした翌年1月1日に岡山市に在住の方は住民税の寄付金税額控除が受けられます。

0 予告 ▶ 岡山いのちの電話市民公開講座「こころの力」開催

①8月19日(日)14:00~16:00
 会場：岡山国際交流センター（岡山市北区奉還町）
 講師：浅沼智也氏(カラフル@はーと共同代表)
 「LGBTQ×メンタルヘルス」

②10月28日(日)14:00~16:00
 会場：オルガホール
 講師：仲間知穂氏(NPO法人ADOCproject理事)
 「家庭・学校・地域で育てる子供の成長」

※入場無料ですが、事前申し込みをお願いします。

0 予告 ▶ 第32回岡山自殺予防シンポジウム 「地域ネットワークがいのちを救う」

2018年11月17日(土) 13:30開会
 会場：オルガホール（岡山市北区奉還町）
 基調講演：清水康之氏
 (NPO法人自殺予防支援センター ライフリンク代表)
 シンポジスト：交渉中

ご寄付感謝いたします

2017年12月19日
 岡山県民共済様からご寄付を頂きました。有難うございます。大切に使用させていただきます。



岡山県民共済様から贈呈式

毎月11日は「幸せの黄色いレシートキャンペーン」

イオンの黄色いレシート投函をお願いします。
 イオン岡山では岡山いのちの電話の投函BOXが設置され、店頭での呼びかけ活動にも参加しています。12月にはイオン岡山で活動パネル展示に3種1組のパネルで参加しました。

マルナカ倉敷市内13店舗（倉敷駅前、マスカット、中庄、連島、チボリ、真備、老松、勇崎、天城、茶屋町、中島、児島、新倉敷）でも岡山いのちの電話が登録団体となっています。投函レシート金額の1%で、今年はイオン様から93,300円、山陽マルナカ様から346,800円のギフトカードをいただくことができました。皆さま方のご協力に感謝いたしますとともに、これからもよろしくをお願いします。

編 集 後 記

会社に勤め始めた若い人は電話を怖れて取りたがらないという話を聞きます。家に固定電話があった時代は、誰からか分からない電話を受けて家族に取り次ぐ、あるいは用件を聞いておくといったことは当たり前だったのですが、最近は携帯電話には誰か分からない電話には出ないし、そもそも知らない人と電話で話すことがないから、電話に出ることに躊躇するのでしょうか。

若くなくても、このごろは「電話を掛けてよいですか」とあらかじめメールをしてから掛けるという人も多いようです。進路のこと、就職進学、友人関係、悩み多いはずの10代の電話は減っています。ほかに相談する人がいればよいのですが、悩みがあれば気軽に掛けてほしいと願っています。(S)



共同募金のささえあいプロジェクトの助成金をいただいています。

ホームページの自殺予防ページ

「死にたい気持ちのあなたへ」

ひとりでも多くの方にいのちの電話を利用して頂き、自殺を思い留まって頂けるように自殺予防ページ「死にたい気持ちのあなたへ」を作成しました。どうぞご覧ください。

岡山いのちの電話は講師派遣をしています。

岡山県の人権教育講師の登録をしています。事務局日誌に掲載の通り、学校、企業、団体などに「岡山いのちの電話」のスーパーバイザーが参ります。

詳しくは事務局(086-245-4344)までお問い合わせください。ホームページもご覧ください

発行 社会福祉法人 岡山いのちの電話協会

発行者 堀井茂男

編集 岡山いのちの電話協会広報部

事務局 岡山市北区上中野1-3-5 TEL 086-245-4344

FAX 086-245-7743

ホームページ <http://www.okayama-inochi.jp>